

## SAH×探究 2年探究活動発表会 報告Ⅳ

年度またぎの特集になりました。2/17(火)の「2年探究発表会」には、「質問訪問」でお世話になった企業、自治体、大学、研究所の皆様にも観ていただきました。本校の探究活動に関わっていただいた皆様からコメントをいただきました。(編集 教頭)

**お願いをした質問** 12月の質問訪問、2月発表会を含めた本校の探究活動への感想をお願いします。「印象に残ったこと、生徒の様子、探究の内容、改善点、高校生や学校に伝えたいこと・望むこと」などどのようなことでもかまいません。

色々なテーマがあり、大変興味深い発表会でした。特に、橋のテーマは土地の条件、群馬の気候、住民への周知、AI活用による橋がかかった想定画像の生成など、視覚的にも内容的にも面白い内容でした。ありがとうございました。



高校生に新聞記者の仕事に興味を持っていただいたことが大変うれしいです。支局に来てくださったお二人も、とても熱心で、日頃から新聞を読み、社会の出来事にアンテナを張っていることが伺えました。高校生が自身の将来を考える上でも企業訪問は非常に大きな経験になると思います。発表会ではお二人に伝えなかったことがしっかり伝わっていたことがわかり、安心しました。皆さんの発表を聞きましたが、高校生の視点が新鮮で、勉強になりました。この取り組みを今後も続けていただきたいです。(読売新聞前橋支局支局長 大野展誠さん)

地域班の発表を取材を兼ねて見学しました。事前にネットで情報を収集し、問題点を洗い出した上で現場に取材していました。最近プロの取材者、新聞やテレビの記者が現場に足を運ばず、ネットの情報だけで記事を作成してしまう傾向がある中、前南生の真摯な姿勢に感動しました。地域の祭りに参加したグループもありました。弊社を取材してくれたグループは貴重な提案もしてくれました。この場を借りて感謝申し上げます。(前橋新聞 mebuku 編集長 阿部和也さん)

mebukuに取り上げていただいた記事▶



今回このような機会をいただけて、私自身としても沢山の学びが得られました。また、障害福祉や現業に対しての振り返りや課題の発見にも繋がり、本当に感謝しております。学生さんの行動力、研究内容への思いにもとても感銘を受けました。まず障害者の就労に関して調べようと思ったこと、そこに至ったそれぞれの経緯と思いが素晴らしいです。12月に来所いただいた時の質問の視点やディスカッションも、経験のない学生さんとは思えないほどでした。真剣に研究されていて、ポイントを抑えているなど感じました。発表についても、誰もが働きやすい社会をつくるという視点と、ヘルプカードやUDシールなどの支援ツールの提案が素晴らしいと思いました。ツールでも対話でも何でもですが、幸せに働く、幸せに生きるためにどうするかをみんなで考えて沢山のアイデアを出し合うことが、1番大切だと思っています。これからも、ユーモア溢れる沢山のアイデアを考えて私たちにも教えて欲しいなと思います。本当にありがとうございました。(社会福祉法人すてっぷ ワークセンターまえばし 齋藤和美さん)



12月に来所いただいた時から、本質をついた質問、何より行動力に感心しておりました。高校生のフレッシュな視点に気づかされることも多く、こちらも活力を頂きました。発表もすごくまとまっていて素晴らしかったです。貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。(障害者就業・生活支援センター ワークセンターまえばし 長嶋脩介さん)

過疎化という難しいテーマに対し、交通事業者である弊社をパートナーに選んでいただいたことを、まずは心より嬉しく思います。公共交通を担う者として、私たちは日頃から「街づくりと交通は切り離せないもの」と考えています。今回、皆さんの非常に鋭く、かつ地に足の着いた考え方に触れ、我々事業者も大きな刺激をいただきました。

成果発表会で特に感銘を受けたのは、探究のテーマが「若者が暮らしやすい街をつくるには」へと進化した点です。「過疎化対策」という大きな社会課題を、自分たちがどう貢献できるかという「自分事」として捉え直した結果だと伺い、その思考の深さに驚かされました。「課題解決には、まず関心を持つこと」。皆さんが導き出したこの答えは、我々が事業を進める上でも最も大切にすべき本質であり、深く共感いたしました。

皆さんに提案いただいた「暮らしやすい街」を実現できるよう、今後は県や市、他事業者ともさらに手を取り合い、精進してまいります。同時に、南高校の皆さんが「今日もバスで行こう」と思えるような、便利で身近な公共交通を目指して改善を続けていく約束をします。過疎化や街づくりに「完成」はありません。これからも考え続けることが必要なテーマです。ぜひ今回の探究をきっかけに、将来、交通や街づくりの分野で皆さんと共に働ける日が来ることを楽しみにしています。(永井運輸

株式会社 課長代理 手島佑輔さん)



今回は、探究発表会にお招きいただきありがとうございました。今回、市役所にお越しいただいた生徒の皆さんにおかれましては、非常に礼節もしっかりしておられ、こちらも熱を入れて質問にお答えすることができました。改めて、いち市の職員としての襟を正す機会となりました。このように若い方達が前橋市の政策に興味を持ち、市政の問題を提起してくれるのは非常にありがたいことだと思っております。

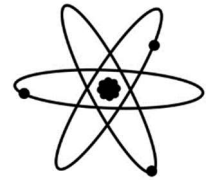
別の学校さんですが、県立前橋高校からは、学校の近くの停留所がわかりづらいというご意見をいただき、4/1から停留所名を変えることとなりました。停留所名を変えることは、簡単な手続きではなく、学識、警察、行政、住民代表等、多くの構成員を抱える協議会で表決を受けなければなりません。事実、若い力がそういった組織を動かした経緯もあります。是非、今後も前橋市政に興味を持っていただき、ご意見があれば忌憚なくお願いできればと思います。(前橋市交通政策課の方より)

貴重な機会、ありがとうございました。質問訪問では真摯にこちらの回答に耳を傾けていただき、発表もとても立派でした。資料も見やすく考察も適切にされていました。対応した班以外の発表も高校生ならではの視点や忌憚ない課題分析があり、素晴らしかったです。他の班の発表を聞くことで様々な社会課題に触れることができたかと思えます。社会課題を自分ごとと捉えて、今後の生活のなかで身近なものと感じられればより成長につながると思いました。(群馬県労働政策課の方より)



12月に質問訪問いただいた際には、テーマの設定から質問内容について、主体的に学ぼうとする姿勢が見え大変印象的でした。行政としましても、地域をどう活性化させるかは、重要なテーマであり、生徒の皆さんの視点は非常に参考となります。次回に向けては、課題に対しての解決策も実現可能性のあるアイデアを提示してみてください。(前橋市役所観光政策課 課長補佐 松村智宏さん)

この度はQST高崎量子技術基盤研究所にご来所いただき、また成果発表会にお招きいただき誠にありがとうございました。来ていただいたお二人が、遺伝子について探究した成果を、自分の言葉で堂々と発表されている姿が印象的でした。QST高崎研では、環境耐性遺伝子プロジェクトのリーダーに熱心に質問されていましたね。そこで学んだことを分かりやすく伝えようとする姿勢が大変素晴らしかったです。



QST高崎研では、量子科学技術の各分野の研究者が日々研究開発を行っています。私たちにとっても研究の意義や社会とのつながりを考える貴重な機会となりました。今回の経験が、お二人の学びへの自信につながることを心より願っております。(QST高崎量子技術基盤研究所 管理部庶務課の方より)

素晴らしい発表いただき、ありがとうございました。生徒の皆さんが各テーマについて真剣に考え、悩み、みんなで議論してきたことが、伝わってきました。今回の経験は、生徒の皆さんの今後の成長に、必ず生きてくると思います。未来の日本を支える若い力が、たくましく成長していく姿を見ることができ、未来に希望が持てます。

皆様の今後ますますの飛躍を期待しています！(群馬県農政課有機・中山間係長 新井邦明さん)



訪問の事前連絡から生徒が行なっていて、高校生のうちからこのような経験をできるのは貴重だと感じました。電話での連絡や、発表まで緊張する場面も多かったかと思いますが、質問で聞いたことを活かして発表し、真剣に取り組んでいる姿は立派でした。この経験が学生の今後に役立つ力になっていけばと思います。ありがとうございました。

企業、自治体、大学、研究所の皆様には、質問訪問、探究発表会と大変お世話になりました。この教育プログラムが高校の次のステージに進む前南生の大きなステップになると確信しており、課題に取り組む姿勢を持った、学び続ける人材を育てていきたいと考えております。

## 新3年生、“探究”今後の展望

質問訪問によって、新たな知見を得て、新たな課題・課題解決へのヒントが出てきた班が多いのではないのでしょうか。3年一学期の「総合的な探究の時間」で、「もう一周目」に入ろう。最初の仮説設定が甘かった班は、調べたことや質問訪問を受けてもう一度課題解決に向けた「仮説の再設定」をしてみよう。また、「課題」とい

うのは色々な立場からあるということに気づいた班もいるだろう。それぞれの立場の課題を整理し、どう解決していけばいいかの道筋を考えてみよう。一学期の終わりで終結する必要はない。「to be continued」でOK、素敵な「活動報告書」になりますよ。

